

日タイ投資フォーラム 挨拶

1 冒頭

- サワディー・クラブ（おはようございます）。ご列席の皆様、おはようございます。経済産業大臣の武藤容治です。今日のフォーラムを開催いただいた、タイ投資委員会、三井住友銀行の関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。多くの方にご参加いただき、タイにおけるビジネスに関する日本企業の高い関心を目の当たりにし、大変心強く思っています。

2 日タイ関係

- 日本とタイは、1887年に正式な外交関係が樹立してから、長きに渡り友好関係を発展させてきました。
- タイは、日本にとって、経済分野における大切なパートナーです。現在、タイには約6000社の日系企業が進出しており、アセアンで最多です。これは、日本からタイへ多くの投資が行われ、それを支える裾野産業がタイで発展してきたという長年のビジネスを通じて培われた信頼関係の賜物です。
- また、日本とタイの間では、ビジネスのみならず人の往来がとても盛んです。

- タイからの年間訪日者数は１１０万人を超え、アセアンで第１位です。また日本からタイへの訪問者数も１００万人を超えています。

3 自動車分野におけるこれまでの取組

- 私は、先人たちが築き上げてきた、こうしたタイとの信頼関係や経済的な結びつきを更に深化させていきたいと考えています。
- その中で、アジアの輸出ハブとなっている自動車産業は、日タイ経済協力の大きな柱です。
- １９６０年代、日本の自動車メーカーがタイでの生産を開始して以来、６０年以上という長きに渡って、両国は技術・知識の共有を通じて、強固なサプライチェーンを構築し、信頼と連携を深めてきました。
- 共に築き上げたこの自動車産業の基盤により、タイでは、関連産業全体で８５万人の雇用が創出され、ＧＤＰの約１割を担う一大産業にまで成長しました。

4 転換期：自動車、製造業、エネルギーでの先駆的取組

- この自動車産業は、今、大きな転換期を迎えています。電動化、脱炭素化の進展により、グローバルな自動車産業はかつてない変革の中にあり、先を見通すことが難しい時代に突入しています。
- こうした状況において、タイが引き続き自動車の生産・輸出ハブであり続けるためには、ハイブリッド、バッテリーEV、水素、バイオ燃料など、特定の技術に依存することなく、多様な選択肢を追求する「マルチパスウェイ戦略」を推進することが重要です。
- そのため、両国間では、自動車をはじめとする製造業、そしてこれを支えるエネルギー分野において、グローバルサウス補助金も活用しつつ、先駆的な取組が始まっています。
- まずは、電気自動車です。電気自動車はバッテリーの充電に時間がかかることが弱点と言われています。この弱点を克服するべく、いすゞ自動車は、バッテリー交換が可能な電気自動車を開発し、バッテリー交換ステーションを街中に設置するというビジョンを掲げています。

- 次に、水素です。例えば、タイの東部経済回廊の工業団地では、1日あたり約2万台の燃料電池車が走行できる余剰水素が発生しています。こうした余剰水素を活用し、水素社会を実現するため、昨年12月には、タイの「ハイドロジェン・タイランド」と日本の「水素バリューチェーン推進協議会」が東京で覚書を締結し、今後の協力関係を構築しました。
- さらに、製造工程全体の脱炭素化も有望な協力分野です。日本では、官民一体で、自動車サプライチェーン全体のCO₂排出量を可視化する情報プラットフォームの整備を進めています。タイの部品メーカーにも参加いただき、共にプラットフォームを作っていくことが効果的と考えています。
- こうした産業を支えるタイの強みの一つは、高い技術力を持つ産業人材です。アジア全体の産業基盤を支える存在として、タイには、大きな期待が寄せられています。
- これまで日本政府は、タイにおいて、7万人の高度人材の輩出に貢献してきました。こうした取組を更に推し進めるため、本年7月には、人材協力で中核的な役割を担ってきた、日タイ経済協力協会と海外人材育成協会が統合され、産業人材の育成を一体的に担う体制が構築されました。

- こうした先駆的取組や産業人材協力を含め、自動車分野をはじめとする産業分野やエネルギー分野での包括的な協力をタイと進めるべく、先ほど、私とピチャイ副首相は、「エネルギー・産業対話」を早期に開催することで一致したところです。

5 結語

- 本日は、製造業を中心にお話させていただきましたが、日本とタイの協力はこれにとどまりません。
- 例えば、タイの国家戦略の重点分野であるヘルスケア。日本とタイは高齢化という共通の社会課題を抱えており、大いに協力の可能性があるでしょう。
- いよいよ、大阪・関西万博の開幕まで52日となりました。ここでも、「大きな幸福のため、いのちをつなぐタイ」が、タイのパビリオンのテーマです。このテーマの下、タイの先進的な医療施設が展示されます。多くの方々にお越しいただき、両国の投資・ビジネスの交流が深まる機会となることを期待しております。
- 最後になりますが、本日の議論が、日タイの更なる発展の礎となることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました（コップン・クラップ）